

【機器更新】

1 超音波診断装置の更新

精度管理の維持と向上を目的とし、超音波診断装置を更新しました。

装置はコニカミノルタ『SONIMAGE HS2』です。高感度・広帯域プローブと新規開発の画像エンジンを組み合わせ、高品質モニターに映し出すことによりコントラスト分解能・空間分解能の高い鮮明な画像を得ることができます。病変に伴う硬さの変化を可視化するストレインエラストグラフィの機能も搭載されています。タッチパネルにより操作が簡便化され、検査精度とともに作業効率も向上しました。



2 子宮頸がん検診における細胞診液状検体処理装置の更新

令和5年4月に日本ベクトン・ディッキンソン社製の細胞診液状検体処理装置（BDトータリス™マルチプロセッサー・BDトータリス™スライドプレップ）を更新しました。この装置の特長は、多くの検体を自動で処理し、適正標本の作製ができることです。これにより、効率的に精度の高い細胞診検査を実施することが可能となりました。また、この装置に使用した容器の検体残液で、細胞診検査後に、トリアージ検査としてHPV検査を追加実施することが可能です。今回の更新により、細胞診検査とHPV検査を併用したより精度の高い子宮頸がん検診を実施することも可能となりました。



3 視野検査装置の更新

令和6年3月にクリュートメディカルシステムズ社製の視機能評価機『アイモscan』に更新しました。

『アイモscan』は緑内障などによる視野異常の検出を目的とした視野スクリーニングプログラムを搭載した視機能評価機です。光が見えたらボタンを押すだけの簡単な検査で、最短約1分40秒で検査が完了します。

視野検査は人間ドックのオプション検査としてお受けいただけます。



【保健指導】

1 特定保健指導 Webシステムの導入

令和6年4月から開始された第4期特定保健指導は、支援の回数や時間といった保健指導の量を重視したものから、減量状況の他、食事や身体活動、タバコ、睡眠など本人の生活習慣の変化を重視した、一人ひとりに寄り添った保健指導内容となりました。利便性やモチベーション維持のツールとしてスマホアプリ等によるICT活用が推奨され、事業団では、クラウド型の保健指導システムを導入し、Webサービスを活用した保健指導がスタートしました。



【集団健診】

1 胃部検診車（あすなろ5号車）の整備

胃部検診車を新しく整備しました。胃X線撮影装置には当施設の検診車で2台目となるFPD（フラットパネルディテクタ）を搭載しました。従来のI.I.D.Rに比べ画質が向上し、放射線量を低く抑えて撮影できます。



2 胸部X線画像AI読影支援システム稼働後の状況

肺がんなどの早期発見や発見率の向上を目指し、令和4年10月から県内の健診機関に先駆けて、胸部X線の画像診断にAI画像解析ソフト（エルピクセル株式会社 医用画像解析ソフトウェア EIRL Chest Screening）を使用した運用を開始しています。AI画像解析ソフトは、肋骨や心臓などに重なる、人の目ではわかりにくい病変や小さな病変を検出し、四角い枠で表示することで医師の画像診断をサポートします。

このたび令和4年度の発見肺がん追跡調査結果が報告されました。がん発見率は前年度の0.06%から0.09%に上昇し、また陽性反応適中度についても前年度の3.4%から3.6%に上昇しました。（がん検診事業評価指標値許容値：がん発見率0.03%以上、陽性反応適中度1.3%以上）

AI画像解析ソフトは、現状の検出精度に留まらず、定期的なバージョンアップにより、更に高い検出精度の向上が図られます。

【学域・母子保健】

1 先天性代謝異常等検査の対象に2疾患追加

当事業団は栃木県の委託事業として、先天性代謝異常等検査事業（20疾患）を受託しております。令和5年からは、拡大スクリーニング検査2疾患（「脊髄性筋萎縮症（SMA）」・「重症複合免疫不全症（SCID）」）が、従来の先天性代謝異常等検査20疾患に新たに追加され、当事業団で合わせて検査を実施しました。

なお、栃木県では、追加2項目の検査費用が全国に先駆けて、全額公費負担となりました。（令和5年4月時点）

今後も、栃木県で安心して妊娠・出産できる環境づくりに当事業団も協力してまいります。検査件数については82頁をご参照ください。

○脊髄性筋萎縮症（SMA）

運動神経や筋肉が育たずに筋力の低下や筋肉の萎縮が進んでいく遺伝子の病気です。

“お座りができない” “首がすわらない”など、気が付いた時には、かなり症状が進行していて、治療を始めても十分な効果が見込めない場合があります。

○重症複合免疫不全症（SCID）

生まれつき免疫機能がうまく働かないことから病原体に弱く、感染症にかかりやすい病気です。

生後、高熱や重篤な肺炎、敗血症、髄膜炎などを繰り返し、命にかかわることもあります。

また、BCGやロタウイルスワクチンなど生ワクチンによる予防接種の後に、ワクチンの病原体による重い感染症をおこすことがあります。ワクチン接種を受ける前に診断されることが重要です。



【普及啓発】

1 事業団公式SNSの利用開始

令和5年4月から、事業団の公式SNS（X）を利用した情報発信を開始しました。

健康に関する情報や健診・検査に関する内容、事業団の紹介など幅広く発信しています。新聞・テレビ・ラジオといったこれまでのメディアに加えることで、新しい年代層の人たちをはじめ、より多くの人たちに向けた発信ができると思っています。今後もXを通じて、少しでも親しみやすい健康情報の投稿に努めていきます。



2 県誕生150年記念県民の日イベントへの出展

令和5年6月10日(土)に、栃木県庁で開催された「栃木県誕生150年記念 県民の日イベント」にブース出展しました。

当日は、がんに関するリーフレットや事業団のオリジナルグッズを配布しました。また、乳がん・子宮頸がんに関するパネルを展示し、がんに関する知識の啓発を行いました。

このイベントには約6万人の方が来場し、栃木県誕生150年記念をにぎやかにお祝いしました。



3 「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2023とちぎ」への参加

令和5年9月2日(土)～3日(日)に「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2023とちぎ」が壬生町総合公園陸上競技場(わんぱく公園内)にて開催されました。

「リレー・フォー・ライフ」は、がんサバイバーやその家族を支援し、地域全体でがん征圧を目指すチャリティー活動です。新型コロナウイルス感染症の影響で、去年は規模を縮小して開催されましたが、4年ぶりに2日間に渡り開催されました。

当事業団も実行委員として運営に携わるほか、当日は47名の職員が参加し、リレーウォークを通じてがん患者とその家族の支援に向けて想いをつなげました。



4 事業団ホームページをリニューアル

見やすさ、使いやすさを向上させるため、事業団ホームページのリニューアルを行いました。画面サイズに応じて自動で文字サイズやレイアウトが切り替わる「レスポンシブデザイン」を採用し、スマホでもパソコンでも見やすく使いやすいサイトになるよう工夫しています。

また、必要な情報にアクセスしやすくするため、シンプルな内容になるように情報を整理しました。ぜひ、新しい事業団のホームページをご活用ください。

